

3 高齢期女性の居場所におけるモノと収納に関する研究 (2013年度)

浅沼由紀
住生活デザイン研究室

長山洋子
インテリアデザイン研究室

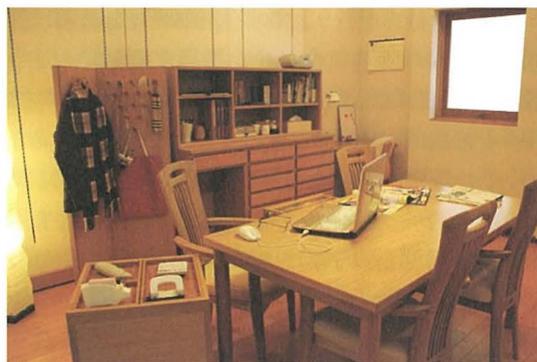
井上 搖子
建築デザイン研究室

星野茂樹・山崎裕子
グラフィック・プロダクト/映像クリエイション研究室

住宅において、多くの時間を過ごしている「居場所」の近くには、多種多様なモノが散らかりがちである。高齢期には他のライフステージ以上に生活拠点としての住宅がもつ意味は大きく、特に居場所での過ごし方が生活の質に与える影響は大きい。女性の場合、居間や食事室などの家族との共有空間であり来客の場ともなり得る部屋を居場所としている場合も多い。本研究では、そうした高齢期女性の居場所に注目し、モノの整理・収納の視点から生活空間の推奨モデルを提案することを目的とする。この提案が、彼女たちの日常生活でのモノによるストレスを緩和し、在宅生活を楽しもうという前向きな気持ちにつながっていくことを目指している。

本研究は、平成22年度～24年度の文化・住環境学研究所による学際研究から派生した研究テーマとして、継続的な研究を行っている。上記期間には、本学同窓会組織の協力を得て複数の調査を実施し、生活スタイルとモノに関する実態を把握し、それら結果を踏まえて制作したオリジナル収納家具を用いた「収納システム」を考案した。「収納システム」は、高齢期の身体面や生活面に配慮したデザイン・コンセプトに基づき、生活空間や生活スタイル・ライフステージに合わせ可変する。このシステム(ベース・引出し、オープン棚、ワゴン、トレイ、ドレスボードで構成)を活用した整理・収納の仕方・暮らし方の提案として、3人の高齢期女性像とその居場所での暮らしを想定した3つの推奨モデルを提示し、住環境デザインモデルルームに設置した居室可変システム内に再現した。

平成25年度には、提案に対する検証を行うため、一般ユーザー及び専門有識者による評価を実施した。いずれも前述モデルルームにてオリジナル収納家具の実物展示とパネルによる推奨モデルの説明を行った後に評価を得た。一般ユーザー評価は、本学文化祭期間中にモデルルームを公開し、来場者のうち24名から全体のデザイン印象や自宅使用の可能性などについて記述式回答を得た。木質素材でシンプルなデザインは概ね好評であり、特に引き出しの仕様(取外し可能な内部仕切や出入れしや



収納システムを用いた居場所の推奨モデル例



専門有識者による収納システム評価の様子

すいガイドなど)についての関心が高かった。一方、取り外して手にするものの軽量化などの課題点もあげられた。

専門有識者評価は、建築・インテリア分野の設計者と研究者の女性6名との意見交換会を行い、多くの指摘・示唆を得た。最低必要なモノや収納できる物品サイズ・容量目安の提示などの収納についての考え方や、一般生活者へこのようなモデルを提示することの必要性やターゲットを明確にして実用化を目指してほしいという本研究への期待や方向性に関する意見を頂いた。

これら多くの方から頂戴した貴重な意見等を踏まえながら、さらに検証を重ねて改善を図り、高齢期女性の生活に届く提案としていきたい。次段階として、実際の生活空間での家具使用実験や本提案を提示するガイドブック作成に向けての情報収集を行いたいと考えている。